

### Ⅲ. 特になし

農業機械や農具を用いず起こった事故を「特になし」と分類している。

## 1. 歩行中の事故

### (1) 畦歩行中、転倒

#### 1. 歩行 (1) 畦歩行中、転倒 ①

78

水田の水見回りで畦畔を歩行中、滑ったので左手を土手につき捻挫

(平成26年 6月上旬 朝5時半頃、男性・63歳)

#### 事故の概況

朝5時30分に水田の水見に出かけた。天候は良かったが、道は朝露に濡れていた。畦畔で右足が滑ったために、転倒はしなかったが畦畔上面に左手をついて親指を捻挫した。靴は530gと軽いベジタブーツを履いていた。しかし、ベジタブーツはマルチなどを傷めないように開発されたものなので、靴底が生ゴムを使用しており、柔らかいが滑りやすい。本来は普通の長靴を履いていく必要があったが、履き慣れていることもあり、注意が行き届かなかった。



水田は2枚で69a。その間に幅50cm、法面50cm畦があり、上面は15度、法面は20度の傾斜があった。上面の傾斜はバックフォーで畦を転圧時（畦締め）のもの。また、隣の水田の水漏れを防ぐためのブロック（幅5cm、高さ20cm）も9度傾斜していた。

受傷後、捻挫だからと、約4ヶ月放置。10月になり秋作業が忙しくなり、痛みが強くなり、10月中旬に近医を受診した。手術は総合病院で行った。親指以外にも小指周辺に腱鞘炎起こして、局所麻酔をして手術を行った。骨のなかで、ゴリゴリと触られるような感覚であった。手術そのものは10分ぐらいで終了した。抜糸は11月下旬予定。

#### 事故原因と対策

一つは靴の問題である。靴底のギザギザがしっかりあり、滑りにくいものを履いていく必要がある。今回は、ベジタブーツを使用したために滑ってしまったと考えられる。用途に応じて長靴を換えることも大切である。

もう一点は畦の管理である。バックフォーで転圧するために、片方に傾いたまませざるを得ないために、畦畔の上面の水平は保つことはできない。上面の水平を保つための処置を行う必要がある。

## 畦で転び、手に持っていた草刈カマで指を切る

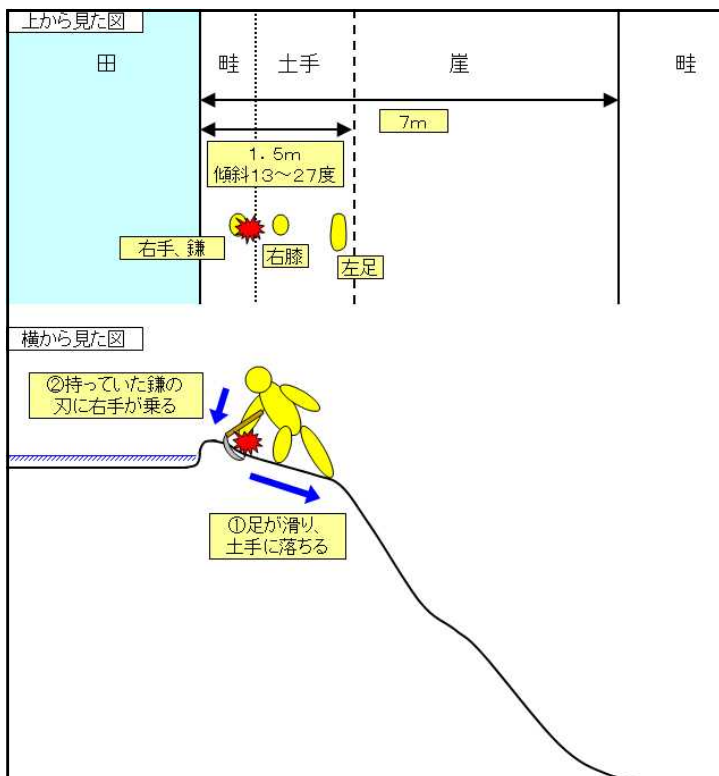
(平成24年11月上旬 午前 7時頃、男性・78歳)

## 事故の概況

水田に水を十分溜めるため、排水口の点検作業を行うこととした。トラックで出かけ、水田の畦を歩いているとき、右足が滑り左側の土手に落ち、転んでしまった。土手は5mほどの高さがあり、上から1.5mほどのところで止まった。そのとき、右手に持っていた草刈カマの刃が土手に引っかかり、その上に右手が乗ったため、右手の中指と人差し指を切ってしまった。

止血をしてトラックに乗って家に帰った。家で消毒、傷薬をぬり、止血して、自宅から13km、車で約20分程度離れている診療所に行き、9時頃

治療を受けた。傷が深く腱を切っている恐れがあり、診療所での治療が無理なので紹介状を書いてもらい、さらに25kmほど離れている市の医療機関で11時頃から治療を受けた。右手、中指の第1関節のところを腱を半分程度切っており接合するとともに6針縫った。人差し指は4針縫った。



## 事故原因と対策

排水口を確認するには、草刈カマは必要ないが、ちょっとしたところに木や草があったときに刈るため、いつもカマを持ち歩く癖がついている。畦が霜でぬれていて滑りやすい状況にあったが、滑るとは思わなかった。カマの刃にカバーをつけて持ち運びすることも必要。



バイク型溝立機で、溝立て作業後、畦道を歩いているときに転倒、肩を強打

(平成26年 6月下旬 午後 5時頃、男性・47歳)

### 事故の概況

水田を中干しをするため、午後1時30分頃から乗用式水田溝切り機(バイク式)を使って溝立て作業を行っていた。6枚目の圃場の溝立てが終わり、手作業により溝を連結して排水をして、幅60mほどの畦を歩いて農道に出ようとしたとき、U字管の淵を踏み外して用水路に落ち、転倒して肩を強く打った。畦の草は短く、滑りやすい環境ではなかったが、畦が若干濡れており、靴底が滑りやすい水田長靴であったため、U字管を踏み外そうとしたとき踏んばれなかった。

右肩が痛みで上に上げられない状況であったが、水田溝切機をやっとトラックに乗せ自宅に帰った。翌日になっても肩の痛みが引かないので、治療を受けた。



水田長靴の底面

バイク型溝切機で溝立て後、畦を歩いていて滑って転倒、右肩をU字溝に強打。水田長靴(底面がかなり摩耗)を履いていた。

### 事故原因と対策

溝立ては4日目で、前の2日は田植機で、あとの2日はバイク式の溝立て作業であった。溝立ては体力的にきつい作業で、バイク式は絶えず足をバタバタと踏み出しているため非常に疲れていた。その作業が終わり、「ほっと」した気持ちで歩いていたため、注意力に欠け、その気の緩みが事故に繋がった。履き物は、軽いので水田長靴を履いていたが、もともと底面の刻みが浅く、滑りやすい。また、水田に水を20cm程度張っていたため、畦が若干濡れており、かつ靴底も濡れていて滑りやすかった。



## (2) 滑りやすい面の歩行中、転倒

### 1. 歩行 (2) 滑りやすい面の歩行中、転倒 ①

8 1

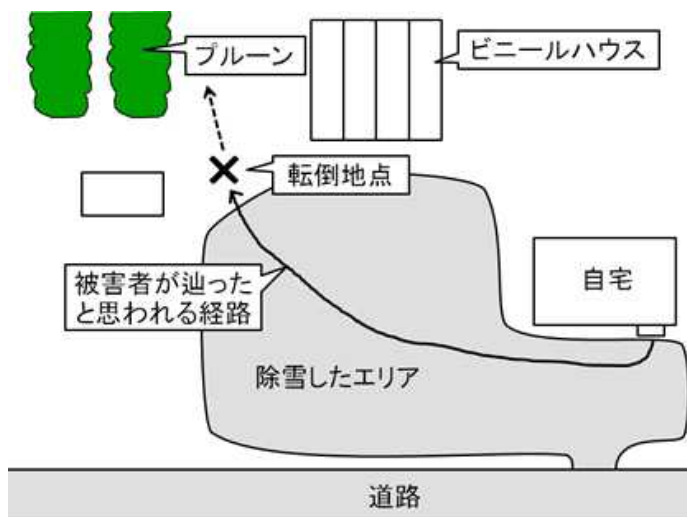
プールの剪定に行く途中、圧雪状態の上で滑って転倒し、手首付近を骨折した

(平成25年 2月中旬 午前9時50分頃、男性・85歳)

#### 事故の概況

プールの剪定作業を行うため、ノコギリとハサミを腰ベルトに挿して、自宅に隣接する果樹園に向かった。途中、除雪した雪が圧雪状態になっている地点で滑り、転倒して手首付近を骨折した。積雪は40～50cmあり、除雪した雪の表面は、昼間に溶けた水が夜間に凍結するため、ツルツルの状態であった。

自宅に戻り、被害者の息子が病院へ連れて行った。左上腕尺骨骨折、2カ月間通院し、完治、後遺症なし。



#### 事故原因と対策

融雪と再凍結を繰り返し、滑りやすい状態だった。転倒現場は、5～7° の下り傾斜があり、通り道は除雪されていなかった。履いていた長靴は、滑り止めがなかった。滑り事故の危険性が十分に認識されておらず、滑り対策が検討されていなかった。その後、本人には、冬季に行う剪定作業は控えてもらっているとのこと。しかし、高齢者に限らず、転倒の恐れがあるため、通り道を除雪するか、滑り止め付きの靴の着用も必要である。



用水路で長靴を洗っていたところ、滑って左手をつき親指を骨折

(平成26年 6月中旬 8時頃、女性・68歳)

### 事故の概況

朝5時頃から、水田の中干しをするための事前作業として、補植用苗を抜き取って捨てる作業と水田の周りの草取り作業を行っていた。長靴や作業服に泥がついていたため、用水路で長靴や手袋を洗って次の水田に入ろうとした。用水路に両足をいれ長靴を洗っていたとき、U字管の底に付いていた水垢や水草で足が滑り転倒しそうになった。この時、土手に左手をついて体を支えようとして、左手の親指がU字管の淵に当たってしまった。

親指がグラグラしており、痛みも強かったことから、骨折をしたと思った。携帯電話で娘を呼び、整形外科医で治療を受けた。ギブスで4週間固定。事故後、握るとき少し痛み、握力が落ちた。



用水で、長靴を洗っていて、滑り、左手を畦について親指骨折。用水は2.6°の勾配、水深20cmとかなり深い。

### 事故原因と対策

U字管の底が滑りやすくなっていたが、気づかなかった。用水路は2.7度勾配があり、水深約20cmとかなりの水量が流れていたため、滑り事故を助長したものと考えられる。

長靴は水田長靴で底のぎざぎざが浅いことから滑りやすかった。また、高齢であり、体重がかなりあることから、手をついたとき衝撃が強かったと考えられる。



用水の底には、水藻などが生え滑りやすかった

## 2. 高所転落

### 2. 高所転落 屋根行き降りし中

83

土蔵の屋根雪下ろし中に、足を滑らし落下、腰部打撲。

(平成26年 12月中旬 11時半頃、男性・82歳)

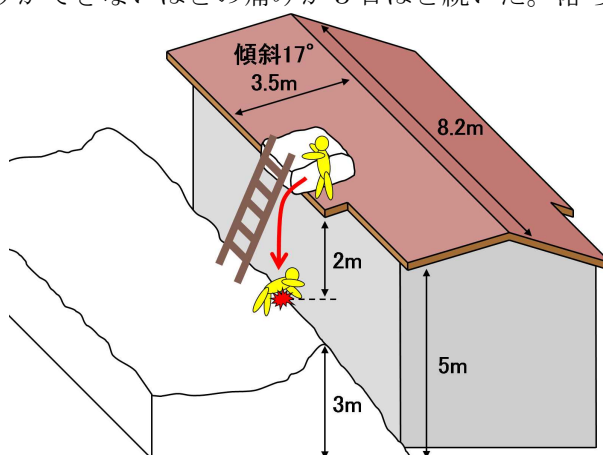
#### 事故の概況

土蔵の屋根の南側の雪は自然に落ちたが、北側は1.5mほど積っており、バランスが悪くて倒壊する恐れがあったので、北側屋根の雪を下ろしていた。屋根にはナゼ止めがついておらず、雪下ろしをしているときに雪が滑り落ちる危険性があったので屋根の上の方から横に動きながらスコップで雪を下ろしていた。1時間ほどで雪下ろしがほぼ終わり、はしごを横に動かし足を前に動かしたときに、雪が滑って、雪と一緒に下に落ちてしまった。

土蔵の下は2mほどの積雪と屋根から落とした雪で3mほどの山になっており、その上に叩きつけられるように横になって落ちた。落ちた場所は屋根から2mほど下にあり、下ろしていた雪が硬く腰を強く打ってしまった。

外傷はないが腰を強く打ったので寝返りができないほどの痛みが5日ほど続いた。落ちた後、作業を妻に任せ家で休んでいた。

痛みがあるときとないときがあり、怪我がそれほど強くないと思い、夕方違う軒下で雪捨て作業を行った。夜になり床に就くと腰が痛くなり、寝返りが打てない状況となった。翌朝、家族に医者に行くように進められたが、1週間ほど前に屋根から飛び降りたとき足を痛め、レントゲン検査を行ったが、シップ薬程度の治療で済んだので、今回も同程度と考えシップをして医者には行かなかった。



#### 事故原因と対策

11月下旬の初雪以来雪が絶え間なく降り、南側の雪が滑り落ちていたが、北側は雪の下が凍りつき落ちなくなっていた。ナゼ止めが無く、滑り落ちる危険性があると思っていたが、過去にも同じように雪下ろしをしたときもあり、今回は下の雪が凍っていたこともあり、滑らないと思い作業を老夫婦で始めた。屋根の傾斜が17度と急勾配であり、滑りやすい状況にあった。しかし、屋根のトタンが、杉の花粉等のゴミが付着しており寒さが続いたこともあり、北側の雪が滑り落ちない現象となっていた。





フォークリフトを使って育苗箱を作業所の2階に収納しようとしたところ、2階から落下、脳挫傷、脳出血  
(平成26年 5月中旬 午前 9時頃、男性・68歳)

### 事故の概況

フォークリフトに積んであった水稻育苗箱を作業所の2階に収納しようとしていた。2階の高さは1階の床から3.6mで、2階に物を上げるのに便利なように縦2.7m、横1.7mの吹き抜けとなっている。その吹き抜けを利用してフォークリフトで積んである育苗箱を持ち上げ、2階で育苗箱を取ろうとしていた。そのときのフォークリフトの持ち上げ方が足りず、2階からしゃがみこんで取ろうとしバランスを崩して1階に落ちてしまった。落下の途中、積んであった育苗箱に当たったようで、1階の床下に育苗箱が散乱していた。



一人でフォークリフトに苗箱を積んで上げ、二階から引き上げるようにしていたが、フォークリフトの上げ方が足りず、前屈みになって苗箱を取ろうとしたため、コンクリート床に墜落。脳挫傷、脳出血、意識不明。

事故直後、事業主が水田から戻ると、本人はフォークリフトの後ろに寄りかかって立っており、目がうつろで、「落ちたんじゃないの」と聞くと、事故者は「立ちくらみしただけ」と応えた。しかし、様子がおかしく、救急車を手配、救急車が来るまでにだんだん意識がなくなり、病院に行く途中救急車の中で嘔吐。その後意識不明の状態が続いている。

### 事故原因と対策

本人は事業主のおじに当り、定年退職後農繁期に手伝いに来ている。定年後7年経ち、季節ごとの仕事も熟知。事業主から苗の水くれと水田の水管理を指示されていたが、当日は水くれが早く終わり、育苗箱を2階に上げておけば、田植え後の仕事がやりやすいと思い、一人で作業をしてしまった。事業主の父が被害者を見たのと事業主が帰ってくるまでわずか10分の間の出来事であった。

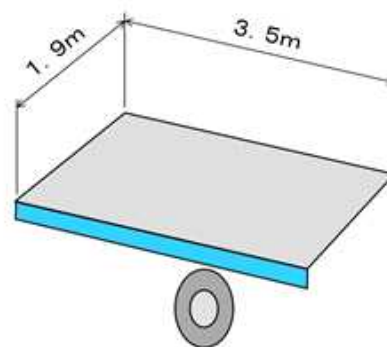
育苗箱を2階に上げる作業は、危険が伴うので2人で行い、事業主が育苗箱を取って、補助者に渡し、補助者が2階に積むようにしていた。しかし、今回は本人が一人作業で行い、しかもフォークリフトの上げ方が足りず、しゃがみこんで育苗箱を取ろうとして転落。また、高所作業にもかかわらず、ヘルメットをしておらず、フォークリフトが車両検査を受けていなかったため、指摘を受けた。落下防止の柵が設置されておらず、事故後柵の設置と1ヶ月間作業所の使用禁止の行政指導を受けた。

ビート移植機の苗ポットが入ったコンテナをトラックに積んでいたところ、雨に濡れた荷台で足を滑らせ、砂利の上に転落し、肋骨骨折、肺気胸。

(平成25年 5月中旬 午後 6時頃、男性・72歳)

### 事故の概況

ビート（テンサイ）の植え付け作業を行う準備として、苗ポットが入ったコンテナを2t ダンプトラックの荷台に積んでいたところ、雨で濡れた荷台で足を滑らせ、砂利を敷いた地面に転落した。その日は痛みを我慢したが、翌日、妻の運転で病院に行き、整形外科と外科で診察を受けたところ、肋骨が3本骨折、かつ肺気胸。管を入れて肺を膨らます手術を受けた。約2週間の入院の後、退院したがしばらくは肋骨を骨折した箇所の痛みが残った。現在は完治している。



トラックの荷台は、鉄板でやり易い状態。

### 事故原因と対策

積載物の荷下ろしが容易なように、ダンプトラックの荷台は滑りやすい上に、雨に濡れてさらに滑りやすくなっていた。当日は強い雨が降っていたが、「滑る」危険について意識は無かったという。

高齢でもあり、その後は重い物は持たないようにした。また、機械への乗り降りにも気を付け、トラクタから降りるときは後ろ向きに降りるようにしているとのこと。